

審議会等会議録(概要版)

審議会等の名称	第1回山口市総合計画策定協議会
開催日時	令和4年3月25日(金曜日)14:00~16:00
開催場所	セントコア山口 2階 サファイア
公開・部分公開の区分	公開
出席者	進士正人委員、今村主税委員、藤井智佳子委員、橘康彦委員(リモート参加)、佐藤真澄委員、桑原智恵委員、坂本京子委員、白石レイ委員、鈴木春菜委員、于佳男委員、永久弘之委員、戸田岸巖委員、重村奈津枝委員、西村健一委員、粉川妙委員、田中貴光委員、手嶋郁夫委員、郡さやか委員
欠席者	小山文彦委員、板垣幸男委員
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 市長挨拶</li> <li>3 委嘱状交付</li> <li>4 委員紹介</li> <li>5 会長・副会長選任</li> <li>6 諮問</li> <li>7 議事</li> </ol> <p>(1)第二次山口市総合計画後期基本計画の策定について</p> <p>(2)意見交換</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8 今後の日程</li> <li>9 閉会</li> </ol>
内容	<p>次第に基づき、以下のとおり進められた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><u>1 開会</u></li> <li><u>2 市長挨拶</u></li> <li><u>3 委嘱状交付</u></li> <li><u>4 委員紹介</u></li> <li><u>5 会長・副会長選任</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長:進士正人委員、副会長:今村主税委員</li> <li>・進士会長挨拶、今村副会長挨拶</li> </ul> </li> <li><u>6 諮問</u></li> <li><u>7 議事</u></li> </ol> <p>【会長】</p> <p>まず、議事に入る前に、協議会の情報公開等について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>【事務局】</p> <p>山口市が設置する協議会などにつきましては、「山口市議会等の設置に関する指針」第5項の規定により、原則として、会議を公開することとし、希望される方の傍聴を認め</p>

ることとしています。また、会議録の作成に当たりましては、内容は「要旨のみ」とするとともに、委員の皆さんの発言については、会議録に発言者の氏名は記載せず、単に「A委員」、「B委員」と記載することとしたいと思います。

【会長】事務局から説明がありましたが、皆様、御意義ありませんか。

【委員】(うなずかれる)

【会長】

それでは、そのような取扱いとさせていただきます。なお、録音のため、お手数ですが、発言の際は、マイクの御使用をお願いいたします。また、本日の協議会は、16時の終了を予定しておりますので、皆様方の御協力をお願いいたします。

#### (1)第二次山口市総合計画後期基本計画の策定について

【会長】

それでは、まず、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(「資料1 第二次山口市総合計画後期基本計画の策定について」説明を行う。)

#### (2)意見交換

【会長】

続きまして、委員の皆様方から、ただいま事務局から説明がありました内容を始め、それぞれのお立場や分野等で感じていらっしゃる課題や、今後予定されている取組などにつきまして、自己紹介を兼ねまして、お一人ずつ、3分程度を目安に、御意見・御提言を賜りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【A 委員】

私は、「環境」の分野で関わらせていただいておりますので、主に環境のところを中心に見ていきたいなどは思っているのですが、ひとつ、市政の大きな変化として、昨年末に山口市は、カーボンニュートラル宣言を出しました。2050年にカーボンニュートラルを達成するというところで、国の目標に合わせて山口市もこれからカーボンニュートラルに向けて取り組んでいきますよという宣言をされたわけですが、では、実際にそれをどう達成するかというところはまだまだ未知の部分がたくさんございまして、いろんな障害も多いと思っています。

特に、山口市は、御存知の方も多いかと思いますが、ガソリンの購入量が日本の各都道府県庁所在地の中で一番多いという汚名をずっと背負っております。ここ10年以上、そういった状態になっておりまして、特に、交通の部分から出てくるCO<sub>2</sub>の排出が多いということになっています。そのあたりは今後、どういった交通手段を山口市は選択していくのか、公共交通を充実させるのか、それとも、例えば、電気自動車のようなCO<sub>2</sub>の排出が少ないような交通手段を普及させるというような政策をとるのか、そのあたりのことは少し考えていけないと思っていますし、場合によって

は、大胆な転換というも図らないと、CO<sub>2</sub> の排出をゼロにしていくということはなかなか難しいところかなというふうに考えております。

同時に、エネルギーの部分についても、再生可能エネルギーをどうやって増やしていくのか。太陽光発電についても、単純にいいところばかりではありませんし、他の再生可能エネルギーもなかなか普及が進まない中で、どうやってCO<sub>2</sub> の排出が少ないエネルギーを確保していくのかというところも、これは山口市だけの問題ではありませんけれども、大きな課題になってくるかなというふうに思っています。

先ほど資料の中で、AIのシミュレーションでいくつか出ておりましたけれども、ちょっと私も前提条件をしっかりと見ておりませんので、この辺はちょっと少し勉強させていただきたいなというふうには思っています。

また、御存知の方も多いかもしれませんが、私、フードバンクの活動もさせていただいて、食品ロスの削減であるとか廃棄物の関連も少し関わらせていただいておりますので、先ほどの資料の中にも、環境を特に市民の環境意識という面が今後課題になってくる中で、今いろんな変化が大きい時期です。そうなってくると、場合によっては市民の価値観というのが大きく変化をするということも考えられるのかなと。そのときにこのAIのシミュレーションがどのように変化するのかというのが興味があるなと思っております。

とりとめのない話になってしまいましたけれども、集まったメンバーの中では、環境にかかわる部分というのは、私がしっかりと発言をしていかないと、環境の分野というのはなかなか世の中で非常に弱い立場にあるかなと思っておりますので、そういったところで検討をさせていただければと思っております。以上です。

#### 【B委員】

私は、子育てがハンデでなく、アドバンテージになる社会に向けて、子育て支援、女性の就労支援、男女共同参画事業を行っております。

西門前商店街に「ほっとさろん西門前てとと」という子育て支援施設があるのですが、そこを起点に活動しております、子育て中の女性50人程度を雇い入れて、自分たちが子育てをしていて足りないような支援、また、事業というものも考えながら、自治体に提案したり提案して駄目だったら、自分たちで助成金を取ってやったりというようなかたちで、自分たちの力で子育てしやすいまちというのを作ろうということで活動しております。

私たちの活動の目的は、一人一人の女性が、家庭が、山口で子育てをして良かったと思うことなんです。その思い方って、AIでこのように出てるんですけども、この10年本当に多様性というか、いろんな子育て家庭があってよく貧困と言われるところとか、シングルと言われるところとか、逆にワンオペって言われるようなところとか、本当にいろんな家庭がある中で、何をしていけばいいのかなってこのコロナがあってから、特に手探り状態なんです。そういった手探り状態の中で、一人一人の市民の方々が子育てしてよかったと思えるようなことを、ここでしっかり提案して、協議会の中でかたちに

していけると、せっかく関わらせてもらったので、ありがたいなと思っています。

これまでの策定協議会の委員に、「子育て」という分野での位置づけがなかったところ、今回、ちゃんと「子育て」分野で協議会の席を設けていただいたことは、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。感謝するばかりではなくて、しっかりと提案できるようにしたいなと本当に思っております。

私もこのAIの結果は、ふーんとしかまだ見れていないところが実際です。一つ思うところは、山口市で20年子育てをされていて、17年子育て支援をしているのですけれども、本当に子育ての環境がぐんと良くなったことを20年で感じます。両立がしやすい、働きやすい、保育園に入ってしっかりと安心してサポートできる人たちもいるという環境の中で、子育てしやすい山口で、本当にここで一生住みたいというふうに言われるお母さん方も多いです。ただ、仕事がないので、永住するのが難しいというか、結局、都会に帰ってしまう人も多いんですけれども。

そんな中で20年変わらないことが、17ページの分岐点1にある交通のところなんです。20年何も変わらず、バスで移動したいときも移動できない。電車もなかなか子連れじゃ厳しいってこういう様なことは、この20年変わりませんし、生まれて40何年変わってないような気がします。そういったところからこの2036年度の分岐点のような課題についても、今後、子育ての目線でどういうふうなかたちで改善していけばいいのか考えていきたいなと思いました。以上です。

#### 【C委員】

山口県社会福祉士会の紹介をすることで、自己紹介とさせていただきます。

山口県社会福祉士会の現在の会員数は752名で、山口市内の会員数は、約140名の組織となっています。社会福祉士の主な役割は、ソーシャルワーク、相談、援助技術を用いて、他の保健、医療、福祉の専門職と協力して、患者さん、利用者、クライアントの抱えている悩みごとや課題解決を図ることを仕事としています。配属先は、入院病床を有する医療機関であったり、山口市内にも基幹型と地域型の地域包括支援センターが7か所ありますけれども、そうした包括支援センターには、法令上、配置することが求められております。

その他にも、介護保険施設、障害者支援施設、児童養護施設などにも配置されておりますし、山口市の総合計画で言いますと、地域福祉・子育てのところが私たち職域のフィールドでないかと思っております。

昨今、子どもに関する相談が増えておりまして、新たな「子ども家庭福祉」資格などの動きもありますけれども、山口県内にも、こども食堂や放課後デイサービスなど、保育に関するお手伝いをしている社会福祉士も増えておりますし、県庁には、スクールソーシャルワーカーが4月から専従で配置されますので、そのスクールソーシャルワーカーと協力をしながら、学校との連携を取るということですので、かつての保健、医療、福祉の専門職だけでなく、教育機関とも連携していくこととなります。

また、山口市にも、昨年、成年後見センターができましたけれども、成年後見人を受

任している会員も多く、社会福祉士会の中でも「権利擁護センターぱあとなあ山口委員会」というものを作っておまして、そちらの方と、家庭裁判所とで連携を取りまして、成年後見の推薦等も行っております。

したがいまして、保健、医療、福祉だけでなく、子ども、司法の分野にも関わりがございまして、協議会に参加していく中でも、何かできることがありましたら、おっしゃっていただければと思っています。以上です。

#### 【D委員】

私は、「教育」と「障害者福祉」と、二つ書いていただいておりますが、現在、山口市の教育委員をさせていただいております。

まず、「教育」の方で感じることなのですが、山口市は、教育の予算も潤沢ですし、IGAスクール構想とかコミュスクとか、あるいは基礎学力とかを見ても、かなり先進的なんだなって私も実際に関わらせていただいて初めて知ることたくさんありました。ただ、一方で、貧困とか、不適切な養育環境にいる子供たちがいたり、やっぱり不登校の子どもが増えているっていうような現状もあります。

とても私ごとなんですけれど、私の息子も中学生の時に一時、学校に行けなかったことがありました。山口市の特徴は、やっぱり地域によって学校の規模が全く違って、大きな学校は大きな学校なりの課題があって、小さな学校は小さな学校で人間関係も難しかったりと、いろいろな状況がある中で、一人一人の子供たちの居場所としての学校ってどうやって作っていけるのかなというところを今、感じていて、そうしたことをここで皆さんとお話できたらいいなと思っています。

また、直近の課題ですけれど、今、私、教育学部で働いているのですが、教員を目指す学生の数というのが、どっと減っています。今このところのブラックだとかいう報道のもとでびっくりするぐらいに減っていて、これからの未来を作っていく仕事なのと思うところで、課題も感じたりしています。

一方で、「障害者福祉」と書いていただいているのですが、私自身は教育学部で働いているのですが、自分自身はずっと社会福祉、障害者福祉を専門にしてきました。コロナ禍に入る前、数年間ずっと山口市で「市民講座」と言って、障害のある方たちの生活を市民の方に知っていただくというような取組を現場の方たちとやってきました。それは、施設の中ではなくて、地域の中で暮らしている人たちのリアルな生活を映像に撮ってみんなで一緒に共有しようと言った取組をしてきました。山口県も山口市もかなり福祉サービスって進んできて、量も増えているし、内容的にもサービスの質も上がっているとは思んですけど、やっぱりハコモノ福祉が多くて、これから先、財源が限られていく中で、施設だけに頼っているのは、障害のある方の生活って成り立っていかないのかなというふうにも感じています。

ですので、そういう中で、地域の中で普通に暮らして、普通に働くことができる、当たり前前に暮らせるような地域、あるいは当たり前前に年を取っていけるようなまちに山口市がなったらいいなと思っています、そういうのをみんなで考えていけたらいいなと思って

います。

【E委員】

中也の「帰郷」の一節を、総合計画の中に明らかにしていた文字は、市報でも見たことがあったのですが、まさかそこに私が関わるとは思わず、すごく緊張しているところです。

専門分野は、ピアノと声楽で、卒業以来、長く山口芸術短期大学の非常勤として保育学科で教えております。合唱団の指導と運営をしており、また、山口市の文化協会の理事を務めているということで、この度、協議会の委員となりました。

1月に還暦を迎えました。恐ろしいことに、市民会館の開館時のリハーサルに立ち会った鮮明な記憶があります。伊藤市長とは、YCAMの企画の段階で御一緒させていただき、初めて「私たちの市長」というような感覚を覚えていると私は自負しているので、そういう伊藤市長のもとで、今年1月、私も何かしなくてはいけないと密かに決意をしておりましたところに、このお話をいただき、即座にOKの返事をしたところです。

文化の分野では、市民で100人集まって会議をするとかそういったこともある中で、この総合計画を策定したときには誰も想定していなかった新型コロナウイルス感染症という余波が今からますますあると思うんです。特に今、合唱は、感染リスクが高いとずっと誤解を与えたままで、この間も、文部科学省の危うい発言があったために、全日本合唱連盟がすぐに問い合わせをし、十分な対策を講じた上で実施することは否定していない旨の補足回答をいただいているんですけど、私達は考えていなかったけれど、今こそアフターコロナの理想像を強く思い描いて、次世代とともにこの山口をつくっていくということがないと駄目だなと思っています。やはり、この分厚い総合計画の冊子を手に取っても、どこにもコロナは書いてないですし、去年の山口ゆめ回廊博覧会も、なかなか難しい、大変なものだったなど。私達も参画しましたが、八坂神社などの屋外で歌うというようなことで、何とか応援したようなところがあります。

山口市は、市内の小・中学校で合同音楽会というものが長らく続いており、ハイレベルな音楽の素養を持った、県内でも稀な市です。それはおそらく公務員も多く、教育熱心な市民性ということがあると思います。そして、この山口文化協会というのは、昔コラボという言葉がなかったときから、異なるジャンルで認め合ってお互いに総合舞台を作るという特殊なことができていた市でした。

これは本当に稀有なことなんですけれども、やはり、高齢化が進み、まだ昭和世代はこうやって頑張っているわけなんですけれども、昔、生涯学習という言葉もありました。そう言った課もあったように思いますけれど、これは次世代の育成とか簡単に言いますが、やはり若い世代と今一緒に作っていく、今、学生の公募委員さんが参加してくださっているようなことだと思うんですけど。勤労世代の余暇というものを、今一度見直さないと考えていて、これは将来の一人一人の資産になると思っています。これがやはり文化という一口に言ってもいけないんですけど、一人一人の市民の生きがいになると思っているんですが、これが本当にかたちにするのができないものなので、こう

いったところを、企業と社会といろんな人がつくっていくのがいいかなと思っています。  
萩山口信用金庫の窓に「この街と生きていく」という理念が貼られたときに、私はすごくその言葉が好きだなと思って、それ以来、そういう気持ちでいますけれども、なかなか、さっきのAIの結果を見ても何のことだかよくわからないので、私も皆様と一緒に勉強させていただいて、このふるさとにさやかに風が吹いているという、そんな風になれたらいいなあと考えているところです。よろしく願いいたします。

#### 【F委員】

私は、山口市で生まれたのですが、10年前に約20年ぶりに県外から戻ってまいりました。ちょうど兵庫県の尼崎市に住んでおりましたときに、1995年に阪神淡路大震災に遭遇した経験がきっかけで、防災等気象のボランティアなど、そういった道に進んでおります。今は、山口大学の研究室に勤めながら、気象予報士の会議を県内で立ち上げて代表を務めたり、日本防災士会山口県支部の女性部長や事務局などとして、主に、地域防災に関わる活動をしております。

今、近年の災害というのは年々甚大化、広域化する一方でして、命を守る仕組み作りというのが、盛んに行われてはいるのですが、高齢者にはよくスポットが当たっているんですが、女性目線ですとか、多様性に配慮というのはまだまだ進んでないなというふうに感じます。

実は、避難所にも避難しましょうと、皆さんよく聞かれると思うのですが、避難したくてもできない、避難所に行きたくても行けない方がいるという現状は、あまり知られていないんですね。避難所というのは、子どもから大人まで、しかも職業も様々、いろんな立場の方が一緒に過ごす小さい社会のようなものだと思っていて、そういった避難所にいる方、目に見えない障害ですとか、悩みに悩みを抱えている小さな声に寄り添う避難所というのが、もっともっと増えていけば、きっと社会も優しくなるんだという思いを込めて、今現在、昨年から活動しています。宣伝みたいになるかもしれないですけども、出来たてホヤホヤの「やさしい避難所～食物アレルギーに配慮した炊き出し編～」という昨年の活動を冊子にまとめたりもしているんですけど、これはアレルギーの方、アレルギーのお子さんを抱えている御家族に寄り添う避難所を考えようというプロジェクトとして、炊き出し支援を主に考えたものです。

これからの総合計画の中でも、そうした小さな声というのが反映されたいなと思っています。防災というと、どうしても安全・安心と、この計画の分厚い冊子の中にもあるんですけども、実は防災って、文化とか福祉とか教育とか環境とか、全て繋がってしまっていて、そういったものをなくしては語れないところもあります。

日々の生活の中に防災はひっそりと息づいているものだと思いますので、防災の分野で声を掛けていただいたのですが、福祉や文化、教育など、それぞれの専門家の皆さんと色々な意見交換をして、勉強させていただきたいと思っております。以上です。

#### 【会長】

せっかくなので、出来立ての資料は、配布されますか。

【F委員】

「やさしい避難所」ですか。はい。たくさん作りましたので、もし御入用でしたらお声掛けください。お渡しできます。ありがとうございます。

【G委員】

私は、委員名簿の中にありますとおり「都市計画・建築計画」という分野が専門になっております。その中でも、特に、都市の住宅が専門で、具体的には、公営住宅を専門にしております。今日は、意気込みということでいろいろ考えたのですけれども、三つ程度、私が貢献できる点があるのかなと考えています。

一つ目は、一昨年、まだコロナになる前に、都市核づくりのワークショップに参画させていただきました。その際に、山口の市民の方々とディスカッションしながら、様々な考えることができましたので、そういった経験を生かしながら、都市核づくりをどのように実践していくかということを念頭に入れてこの会議に関わっていただけると考えております。

二点目は、先ほどF委員が防災ということで自己紹介いただきましたけれども、やはり災害と居住、暮らしというのは密接に関わっておりまして、この点も、国も近年、非常にある程度の強制力を持って計画するようという方向になってきております。やはり、その災害の危険があるイエローゾーン、レッドゾーンについて、居住の誘導を行うのか、あるいは開発許可を出すのかなど、そういった議論が活発に行われておりますので、そういった知見が少し提供できたらなというふうに考えております。

三点目ですけれども、先ほどの居住の誘導の話は、コンパクトシティということにも関連してくるのですけれども、山口市は盆地で山に囲まれていて、そうした自然の地形の利から、コンパクトなまちとなっているというような状況だと考えております。

こうしたことは、交通の話がこれからあるかなと思いますけれども、平たい土地が少ないということで、交通事情が悪くなるといったこともあると思いますけれども、逆に、歩いて暮らせるまちづくりというのが実現可能という言い方もできると思いますので、最近計画されている湯田温泉パーク、そちらの協議会等も少し見学させていただいているのですけれども、歩いて暮らせる健康なまちをどのように作っていくかということがテーマになるかなと思っておりますので、そうしたところから貢献できればと思っております。

最後に、私、公営住宅等、社会的な住宅というのが専門なのですけれども、その中でも特に「参加」ということをテーマにこれまでいろいろな活動を行っておりまして、様々な人が様々なかたちで、市民あるいは専門家の方がどのように参加をするか、広範な意味での、包括的な意味での参加の仕組みをどのように作っていくかといったような観点からも、少し見ていきたいなと思っております。

【H委員】

私の専門は「交通計画」でして、自転車公共交通から道路の計画まで幅広く交通の



計画ということを考えて研究、教育活動を行っております。

実は私、今日の一番のミッションが、皆様方に、総合計画における交通の重要性をぜひ御理解いただきたいと思って、意気込んでできたんですけども、AIがすでに解明しておりまして、また、他の委員からのお話にも交通が大事とおっしゃっていただいたので、私の今日のミッションは達成したなと思っております。

交通というのは一つのパーツのようにも見えるのですが、都市の中ではいろいろな機能、産業とか観光とか子育てとかをつなぐ「血管」のようなものだというふうに私は思っています、道路だけでなく、もちろん公共交通も、子供と高齢者とか妊婦とかも、自動車を使えない人を運ぶ重要な血管だというふうに思っていますので、交流と創造のまちをつくっていくためには、必ず議論が必要だと考えています。

私自身も、今、5歳と2歳の子供を育てておりまして、交通は、道路と自転車だけじゃ駄目だなというふうにも実感をしているところでございます。交通については、ここ10年、特にこの5年ですごく環境が変わっておりまして、多く検討することが必要になるだろうと考えています。

まず一つ目は、今まで特に公共交通というのは、民間の事業をサポートするというようなところが自治体の基本的な立ち位置だったわけですが、交通政策基本法が成立しまして、市が積極的に形成をしていく、主体的に形成していくと位置づけが変わっております。

それから、そもそもの利用者の減少で、JRですとか交通事業者の経営が逼迫していたところにコロナ禍もありまして、また、それにさらに運転手を始めとする人材の不足等もあって、サービスの低下が著しくなっているところもあります。

そこで、いろいろな地域で、その地域で公共交通を支えていこうというような、例えば、滋賀県で交通税を導入するというような議論も始まっておりますし、共同経営というような話も進んでおりますし、あるいは先ほど、会長がおっしゃられた自動運転の取組を進めていくというようなところもあります。

あるいは、国内外問わず、最近サブスクリプションといって、定額で公共交通を乗り放題にするようなサービスを導入しているような自治体とかも増えてきておりますし、小型のEVも法改正でいろいろな種類が増えたりしておりまして、皆さんも報道等で電動スクーターとか御覧になったことがあるかもしれないですけども、本当に交通を取り巻く環境が大きく変化しております。

ですので、ぜひいろいろな視点を持って御検討いただいて、こういうまちなら住んでみたいというような都市計画のまちづくりの計画に、交通分野として貢献できたらいいなと思っています。以上です。

#### 【I委員】

私はこのリストの中で、「観光」という分野の代表として参加させていただきました。実はこのオファーをいただいたとき、とても迷いました。上司にも相談しました。外国人、しかも、経歴も浅い私でよろしいでしょうかと、上司に聞きましたら、「あなただから

こそできることではないでしょうか。外国人として山口市で、そして、山口の玄関口である新山口駅の外国人観光案内所で、長年、外国人観光客の動向を見てきたあなただからこそできる発言ではないかな。恐れず話してくるように。」と言って貰い、今日、ここに座ることができました。

先ほどのAIの分析結果なんですけれど、ちょうど私は、大学時代も、SPSS分析を駆使して博士課程を取りましたので、9番の「外国人観光客」について、分析して結果が出ましたねと密かに喜んでいました。私の分野でドンピシャじゃないかなと思っていました。

しかし、外国人観光客を誘致する、増やすとの一言は、地方の山口市そして、山口県にとっては本当に難しいことと、カウンターに立って、インバウンドに携わって日々実感しております。

一つの例を挙げたいと思います。ちょうど2日前、山口市と名古屋市の合同主催となる外務省のイベントに参加してまいりました。東京での取材なのですけれど、私はいろんな海外の担当者に山口のいいところを紹介する役目でした。まず、ドイツの経済担当の方に湯田温泉を紹介しました。「湯田中温泉ですね、聞いたことがある。」と言われましたが、それは長野県の温泉地です。続きまして、トルコの大使に外郎を一生懸命紹介したところ、「やっぱり山口の外郎は、名古屋の真似ですか。」と言われました。いや、それは違います。山口の外郎の歴史は600年、名古屋はたったの200年です。

でも、笑顔で紹介しながら、内心はちょっとショックを受けました。都市セールス、そして、インバウンドのプロモーションの最前線に立っている私は、都市セールス不足を実感しました。ここで1年間をかけて委員の皆さんに、山口のいいところを紹介して外国人観光客のPRをしていけたらと思います。

先ほど、E委員の言葉をとても好きになりました。「この街と生きていく」。やっぱり、インバウンドを推進しながらも、もともとここに住んでいらっしゃる方を大事にしないといけないと思います。これから皆さんの意見も聞きながら、インバウンド、そして、アフターコロナの山口市の観光政策について、一緒にディスカッションしていきたいと思っています。

#### 【J委員】

維新みらいふスタジアムの前にありますJAから参りました。JAという呼び方と農協という呼び方とございますが、最近はずいぶんJAという言葉が定着してきたのかなという思いがしております。農家の方々と消費者の方々、農家と一般の方々を繋ぐ仕事ということで、農協として農業に携わってきたわけでございますが、このコロナによって、実は農家の環境も随分変わってきました。

農業といえば、種をまいて丹精込めて作り上げて、農産物を生産して、それが皆様方の消費に回る。ですから、ある意味、無尽蔵のような感じがしております。

しかしながら、コロナによりまして生活スタイルがずいぶん変わった関係で、例えば、先ほどありましたけれど、交流人口がずいぶん減少したということは、日本国内に定住

する人ばかりではなく、海外から来られる方の食に携わってきた部門がですね、一切、そういったところでなかなか商品の行き場を失ってしまったといったところで、ここ2年間、農産物によっては、もう農家の生活すらできないような部門も出てきているところがございます。

山口市内で一番影響が出たのは、やっぱり花。入学式とか卒業式の時期になります。昔は花が足りなくて、どこから仕入れるかとかいう話をしていましたけど、今はそういった大きなイベント等で花が使われることもなく、今、JAでできる限りのことをしようということで、花屋さんからお花を買って、小・中学生の卒業生に、少しずつプレゼントしようと言ったところで、消費する分まで、わずかのお手伝いしかできませんが、携わっていかないと、農家を維持するというのが大変難しい環境でございます。

それと、皆さんも、生活の中で体感されていると思いますが、ここ最近ずいぶん燃料代、ガソリン代が上がりましたよね。農家の方も飼料等について、海外から輸入されるものがたくさんございまして、生産コストが今年度に限っては、一気に上がっております。

ですから、価格は下がる、それに対して生産コストは上がるということで、皆さん農家の方を想像されると、だいたい顔が黒くて、元気そうなおじちゃんとおばちゃんと思われるかと思いますが、実際、環境としては大変難しい、経営の方、今一生懸命、意地と地域を守るというふうな感覚で実は携わられておるところでございます。

農家の方々と皆さんも繋ぐということで、各地域の子供さんを集めて、例えばサツマイモ芋の定植体験とか、米作りクラブなどを、農協を通じて、各地域の農家の方とやってきたわけですが、コロナ禍におきまして、ずいぶんそういった活動も自粛をして皆様方にお伝えする機会というのが少なくなってきた次第でございます。

皆様、御存じかもしれませんが、私どもJA山口統括本部でも、毎年12月に農業祭というのを第一土日に盛大にやっておりましたが、ここ2年、一切しておりません。ですから、私、農家の代表としまして、ここにお声をかけさせていただきましたので、そういった農家の気持ちを代弁しながら、そして、農業というのは、農家や農協で状況が一変するようなものではございません。

ですから、皆様方のお力添えをいただきながら、御理解いただきながら、農業じっくり育てていかないとですね、すぐすぐに結果が出るものでございませぬ。そういったことを通じながら、不便や不安を解消しながら、何が住みよいまちかなということを考えますと、価値観の共有ができるような、そんな山口市になると、今も十分なっていますけれど、それ以上に、これから5年先10年先を見たときに、そういった不安材料が少しでも解消できるようなまちづくりに、この会議を通じて皆さんと意見の共有ができればいいかなとそのような思いで参加させていただきました。

私の年代からすると農家と言えば、個人で経営して家のおじいちゃんおばあちゃんが、一生懸命野菜を作るという年代ですが、実は今、山口市の農家の方たちというのは随分変わっております。農村地域と言われる地域はですね、もう個人では農地の保全が難しくなっておりますので、地区を上げて農業法人、農家の代表者の方を何人か雇

って、機械を大型化して法人として農業経営を続けておられます。14、5年前になるとそれが農家の最終形であるというような思いで皆さん一生懸命作られてきたのですが、今、農業法人を作っても、実は後継者がいないという、これまた大変な状況になっております。本来であれば地域で、その農地を守っていこうという最終形態のつもりで作られた農業法人が、今、地域外の方から、そこに働く人を雇って、何とかその地域の荒廃を防ごうと頑張っておられるところでございます。

皆さん、最後になりますが、私のわがままでございますが、スーパー等でお買い物をされる時は、山口市産をまず手にとってみられて、山口市産がもしなければ、山口県産を選ぶという活動を、皆様方にもしていただければ、農家の方もずいぶん喜ばれると思います。

そういったことで、皆さんといろいろ意見交換をさせていただきながら、目指す姿になっていければと、そういう思いで参加させていただきました。よろしく願いいたします。

#### 【K委員】

山口県中央森林組合は、山口市と防府市が該当します。本所は、阿東の徳佐です。そして、大内の長野に総合支所がございまして、防府支所、徳地支所がございまして。

また、私の住んでいるところは、徳地の柚野というところでございまして、佐波川ダムがございまして。ふれあいパーク大原湖というキャンプ場がございまして、御存知かな。最近、キャンプ人口が増えまして、これもコロナの影響だろうと思うのですが、キャンプに来られるより、そこに定住してくれたらなあというふうに思っている状況でございます。大変過疎が進んでおまして、本当に少ない人数でございます。せっかくの機会ですので、ちょっと宣伝をさせていただきます。

私の住んでいるところに滑(なめら)国有林という国有林がございまして。そこには滑松(なめらまつ)というアカマツです。これは、県の木ですけれどアカマツがございまして。200年以上経った松を滑松と申します。これは皇居の新宮殿などそう言ったところに使われておりますし、錦帯橋にも使われております。防府天満宮の茶室にも使われている、大変名木でございまして、それをなんとか守ろうと言って、私は、保存会の副会長をやっておりますので、この場をお借りしまして、ちょっと宣伝をさせていただきます。ぜひ皆さん、山口市の宝物でございますので、自慢をしていただきたいというふうに思います。

私ども森林組合が取り組んでいる林業というのは、皆さん御存じのように、持続可能な開発のための国際的な開発目標でありますSDGsに直接関係する仕事でございます。また、2050カーボンニュートラルに向けて森林の果たす役割というのは本当に大変な大きなものがあるわけでございます。

木を植えて育てる。森林を整備するということは、先ほどからも出ておりますけれども災害に強いまちづくりに貢献をするということでございまして、本当に今から、この林業というものは、環境の問題が大きくなっている状況の中において、大変重要な役割

を果たすと思っております。

しかしながら、林業は、他の産業とは違いまして、大変にスパンが長いんですね。植えてから収穫するまでが50年60年という、大変長い年月を要するわけです。野菜とかお米とかだったら、何ヶ月というサイクルですけれども、50年60年。私は18歳で家に帰りましたので、自分が植えた山が今、ちょうど50年生になりました。私には孫がいますので、3代ぐらいかかるのです。いわゆる木を植えて育てるということを3代ぐらいかけて行いますので、本当に大変な仕事でございます。

そして、また、今の状況でいいますと、過疎が進んできて、人口が減っていく状況の中において、森林を育てる人たちの担い手が本当に不足をしてきつつあります。大変危険な仕事でもございます。チェーンソーを使ったりしますので、体にも大変な苦勞をしながら作業しなくてはならない。真夏の中、草を刈ったり、ハチに刺されたりと、本当に大変な思いをしながら、みんなよく頑張ってくれているのですが、こうした今後の担い手不足という問題も、今から大きな問題になってこようと思っております。そうしたことから、今後の環境問題には、大変大事な林業でございますけれども、それをどうやって守っていくかということが今からの大変な課題であろうと思っております。

#### 【L委員】

今回、協議会の委員ということで名簿には、「産業・雇用」ということで携わらせていただきますけれども、この名簿を見ると、本当にいろんな分野の専門家の方々がいらっしゃりまして、皆様のお話をお聞きする中で、それぞれの分野でそれぞれの課題があるということが大変よくわかりました。

商工会議所は、御存じのとおり地域の経済団体といたしまして、地域経済の活性化、これを理念にして地域の中小企業と小規模事業者と言われる事業者の皆さんの支援に取り組んでおります。

事務局からの資料にもございましたけれども、人口が減っていくという課題がどの地域にも共通してありますが、幸いにも山口市は、人口減が食い止められて維持がされているという中ではありますけれども、今後、人口が減っていくということは経済的には消費が減っていくという、経済の循環を招いてしまうところですので、消費を拡大させるということによって、地域経済の発展と維持に繋げていけたらということで商工会議所の方でも取組をさせてもらっています。

消費を拡大させるというところにおきましては、先ほどからも言葉としてあります、交流人口、定住人口を増やすことが求められておりまして、そのためには、人が集まる、住みたくなるまちづくり、これが今日の資料8ページの後期基本計画の策定の考え方の中の言葉の一つにはなりますけれども、「豊かな暮らし」、こちらの方が必要なのだろうと考えています。

さらには、今、現在この山口に住んでいる私たち自身が、山口市をもっと知ってもっと好きになることが大事なのだろうと思います。いわゆるシビックプライドという言葉がありますけれども、これを醸成することが根本的に必要なのかなということです。

昨年、山口市には、人口が集中している地域ということで、山口都市核というところと小郡都市核、この二つの核を持っているわけなんですけども、山口都市核の中の中心市街地エリアと、小郡都市核の中の新山口駅周辺エリア、こちらの30年後、50年後、こんなまちになっていたらいいなという未来都市構想について、商工会議所として提言をさせていただいています。これを本日皆様にお伝えしたいところではあるのですが、3分では足りませんので、割愛させていただきますが、ぜひ、山口商工会議所のホームページに同所の提言を掲載させていただいておりますので、お時間があるときに、ぜひ見ていただけたら嬉しいと思います。

商工会議所としては、地域の中小企業小規模事業者の皆さんの声をお届けするとともに、今回は、冒頭にもお話しさせていただきましたけれども、各分野の課題、これを知ることによって、また私どもが策定する未来都市構想にも反映できると考えておりますので、皆様から御教示いただきながら、私自身も勉強させていただこうと思っておりますので、1年間、8回ということでありませうけれども、私もしっかり準備と勉強をして取り組みたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### 【M委員】

私も、AIのシミュレーション結果を興味深く拝見しました。農山村部、都市部の共存型シナリオの成果が最も高いという結果が出たのは、市長さんが公約として掲げられ、市民の高い得票を得たのがこのAIの結果として検出されたというふうに認識しております。

私はL委員とともに、「産業・雇用」の役割が期待されているということでこの中でも、特に働く場所をいかに増やすかということが大切だと思っています。

先ほど、B議員が、子育てしやすくなったけど、働く場所がないから東京へと、ここを言われたのがまさにそのとおりだなと思っておりまして、ただ、一方で明るい材料も出てきておりまして、2021年度の上期の新規設立法人、これは日本全国の中で山口県が前年比伸び率55%と全国からトップ。山口県の中では、山口市の伸び率が前年比97%、つまり前年度の2倍の新設法人があったということで、素晴らしい成果を出されております。

日本経済新聞の分析によりますと、これは山口市が企業のDXに力を入れていращやることが成功要因という分析をされておりますので、今日事務局で来られている部長さん、課長さん方を始めとした市の職員の方々には敬意を表したいと思います。

一方で、山口市は、20数年後には下関市を抜いて山口県内で一番の人口の都市になるという国の推計が出されています。山口県をまさに代表する都市になるということで、この良い流れをさらに加速させる必要があると思っています。そのためには、今の新設法人の多くは、飲食とか美容サービス系の業種が多いと認識しております。それはそれで山口市に合った業種なんですけども、山口市の特色として、豊かな歴史文化、教育医療の充実、あとは新幹線や空港からのアクセスの良さ、こうしたことを考えますと、IT企業やフリーランスのようなソフト産業の集積をより進めるような取組が有効かつ必

要と考えております。

すでにそういった事例が出ているということは、私ども銀行として認識しております。先ほどL委員から話がありました未来構想においても、この観点は取り入れていただいております。商工会議所と一緒にこの取組を進めているところでございます。

その中で、私ども山口銀行が融資や預金の金融サービスだけではなく、山口市内はもちろんのこと、県内県外のいろんなお客様と取引がありますので、お客様と新しくこちらで仕事をしたいという方を繋げたりとか、あとは、グループ内に人材紹介の会社も作っております。特に好評いただいているのが、人手不足で悩んでいらっしゃるこちらの企業の方に、東京の大手企業では副業が認められていますので、地方の企業で貢献したい、山口の企業に自分の持っている経験ノウハウを活用したいという引き合いが結構多く、その方々はお金のことじゃなくてやりがい求めて副業するという方が多くて、そういうことを繋ぐということもやっておりますので、この会の議論に加えて、その後の実装していく局面でもお役に立ちたいと考えております。

#### 【N委員】

私は、元地域おこし協力隊でして、現在は、野田学園近くの八坂神社の近くで「イタリア食堂ベケ!？」という古民家イタリアンを3年前から夫と開設しております。委員名簿では、あまりにも私のことが分かりづらいので、ちょっと自己紹介をさせていただきますと、私の生まれは兵庫県の姫路市というところでして、そして、大学のときに文化人類学や社会学を学んでから、製薬会社で7年間勤めて、たまたま行った旅行先がイタリアで、なんて料理も美味しくて人も優しいんだと思ひまして、大企業を辞めて、2005年にイタリアに食の留学に行きました。食のライターになろうと思って飛び込んだのですけれども、1年ぐらい経って、イタリア人男性と知り合って結婚するわけです。イタリアの食を学ぶということで、そこで出会ったのがスローフードというものでして、これは平たく言うと、地産地消でその町の古くから食べられている色のプロダクトや農作物の価値を上げてみんなに食べてもらうという、そういう運動です。

結果的に、イタリアに11年間住むことになったんですけれども、その間にイタリアのライターとしての活動を本として1冊出しましたし、いろんなところに取材に行ったりとか、あとは、観光業ですね。自分でホームページを立ち上げて、日本からやってくるお客さんをワイナリーに連れて行ったり、羊の乳しぼりから見学してもらって、チーズ作りを見学して出来たてのチーズを食べてもらったり、いろんなところに観光に連れて行ったり、また、通訳なんかの仕事もしました。

イタリアがあまりにも不景気なので、夫が日本に移住したいと言ひまして、私も地方都市がすごく好きで、イタリアの魅力は地方にあると思って地方の食とかをやっていたので、じゃあ帰るにしても、都会の兵庫県よりは、地方都市に行こう。夫がフラフラ自転車で行けるように、ある程度文化度が高くて、コンパクトなまちにしようと思って、たまたま総務省の地域おこし協力隊の要綱を見ていると、山口市観光交流課。「大殿地区でアートで活性化する」というテーマが目に入りまして、夫も私も山口市に行ったことない

けど、きっと良いまちに違いないと思ひまして。リモートの面接はNGで、市役所に来てくださいということで、わざわざイタリアから行きましてですね、父の勧めもあって、一泊はしなさい、湯田温泉に泊まりなさいということで、初日に大殿をまわって湯田温泉に泊まって、2日目に最終面接に臨んだところ、採用されました。

山口市は、外国人から見たらどんなふうに見えるだろうと興味あるかと思ひますけれども、夫は、凄く山口のことが気に入らして、しかも、古民家に住みたいっていうんですね。私達、体が大きい2人なので、最初はちょっと安めの住まいを探していたんですけど、なかなかアパートはちょっと古くてっていうので、後河原の古民家に住んで、そのエリアがすごくそのエリアが気に入って、夫からは、君が3年間終わって退任するときには、古民家でイタリアンするから、任期中に探しくよように言われて、たまたま御縁があって今の野田にある100年来の古民家を見つけてなりわいをするに至りました。

山口市は、とてもヨーロッパの街に似ています。というのも、都市部が発展をされていて、徒歩圏内で訪れる自然があるというですね、ホテルが出る一の坂川が繁華街からすぐあるっていうのは、なかなかそんな街はなくて、それはヨーロッパの街にとても似ています。

そして、文化度がとても高い、食が美味しいということで、私は、本当に山口は、もっともっとポテンシャルが高いので、その素晴らしさを発信してほしいと思っています。そして、資料にもあるように、農山村部と都市部の発展ですね。これも欧州ヨーロッパに見られる都市の発展の仕方なんです。

トスカーナ州のシエナという街を御存知ですか。そこの議会堂にロレンツェッティという画家が描いた善政の間、悪政の間というフレスコ画があります。良い政治をする善政の絵にはですね、城壁の中に囲まれた街で人々が笑って、そして、城壁の外には、非常に整備された郊外の農村地帯が広がっています。なので、本当にまちの中と外がですね、人が自由に行き来して、そして、土地を整備して豊かな農作物をまちに運んでくるというですね。このサイクルというのは、これは私は本当に目指すまちのあり方だと思っています。

そして、昨今のコロナや戦争の話を聞くにつれ、もっと食料自給率を山口市も上げてほしいなど。有事のときにも備えがあるように上げてほしいんだけど、やっぱりそれには、農業とかがもっとかっこよくないと駄目なんじゃないかなっていうのは思っています。

もう本当に私90分とかでも話し続けるので、これくらいにしておきますけれども、イタリアの事例もたくさん、イタリアのまちおこしなどについて講演したり、そういうふうな仕事もしていたので。ミクロの視点を持ちながらも、やっぱりマクロの視点でまちづくりを見てみるというのが非常に大事かと思ひます。

また、農業や林業をされている方の現実的な問題もあるけれども、じゃあ、それを利用する一般の人たちはどうやったら面白いのか、どうやったら売れるのか、それは逆に商業の地域の個人事業主、私も個人事業主ですけど、どうやったらまちの人に県内や県外から人が来る、面白いコンテンツを提供できるのか、それは基本的には個々が



考えてやるんだけれども、そのチャレンジをするときに、チャレンジしやすい環境を市が用意するということはとても大事なんじゃないかなと思っています。

#### 【O委員】

私の役割としては、「デジタル」ということで、もう皆さんも御承知のとおり、デジタルはやはり手段でしかないというふうに思っています。皆様がいろいろお感じになられている課題に対して、デジタルだったらどう解決ができるのか、デジタルのアプローチだったらこういうことができるかもしれないみたいなどを私としては皆様にいろいろお伝えをしながら、この協議会の中ですべてより良い総合計画の策定の中でアイデアなりをお伝えしていく必要があるかなと思っています。それに実現できるようなかたちで私も、いろいろ頑張っていきたいなというふうに思っています。

私自身としては、県、財団の方がこのすぐそばにありますNPYビルの10階でY-BASEという、DXに関係する各相談拠点の方も設けております。その立ち上げ含めて県、財団の立場で今いろいろ運営をさせていただいています。そこには、各企業さんや自治体さんとかがいろいろな御意見、御相談をいただきながら取組をしたりしていますので、その辺の御相談内容から考えられる情報などをですね、こういう場で御提供できればいいかなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

私自身としては、デジタルという技術に対して、皆様に対する翻訳家みたいなかたちで、よりわかりやすく、デジタル技術をどう使えるかみたいところで貢献できればいいかなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

#### 【P委員】

山口県におきましては、地域の皆さんの相談窓口としまして、県内7つの県民局を設置しております。山口県民局は、その一つとして、山口市と防府市を所管しております。山口市の神田町の総合庁舎の1階にあります。先ほど会長さんから県民局って何だろうと言われていたので、PR不足を痛感しております。私も、県職員生活もあと1年となりまして、最後の年に、協議会で山口市の将来計画の策定に関与できることを大変光栄に思っております。よろしくお願いいたします。

県の立場から言いますと、それぞれの都道府県のイメージというのは、県都である市のイメージと重なる部分が大いかなというふうに思っています。やはり山口県のイメージアップを図るためには、山口がどのような都市であるかというのが大変重要であると考えておまして、山口市の発展なくしては、県の発展もないと言っても過言ではないというふうに思っています。

そういった意味では、県の玄関口である新山口駅には、山口市産業交流拠点施設がオープンしまして、産業支援機能等の集積とか、あるいは市街地再開発が進められようとしております。また、行政文化の中心である市の中心部には、市の顔となる市庁舎の建て替えが進められようとしておまして、県都にふさわしい空間も生まれようとしております。

さらに、山口市の大きな財産である湯田温泉におきましても、市民交流広場が整備されようとしておりまして、まさに、今後5年10年後の山口市がイメージアップが図られて、大きく発展していくんじゃないかということで大きな期待を持っているところでございます。今後のまちづくりを進めていくための視点、先ほどの〇委員からお話のありました、デジタルを活用したまちづくり、これが重要なんじゃないかというふうに思っています。

ここ2年間におきまして、デジタル技術を活用した時間や場所にとらわれないテレワークなど働き方が広がって、生活の利便性におきましても、都市と地方との差が縮まるということの中で、都市にはない豊かな環境とゆとりの中で、仕事ができるという時代を迎えているというふうに思っています。

国におきましても、成長戦略の柱に、デジタル田園都市国家構想を掲げられまして、地方からデジタルの実装を進めることによって、地域の個性を生かした地方の活性化を目指すというふうにされております。

山口市総合計画の共通理念として、都市部も、農山村も共に発展するまちづくりというのがございます。まさに山口って便利なまちだなというふうに思えるように、デジタルを活用したまちづくりという視点も、計画のどこかに盛り込んでいけばいいのではないかと考えております。以上でございます。

#### 【Q委員】

この春から大学4年生になります。私がこの山口市総合計画策定協議会の公募委員に応募した理由ですけれど、私は、社会福祉学部社会福祉学科で3年間学んできたんですけれど、今、一番関心がある問題が、気候危機の問題です。自分がおばあちゃんになるまで、安心安全な生活ができるのだろうかって本当に考えますし、自分が将来、子供を産んだとしても、その子供たちが安全な場所で生きていられるのだろうかということもすごく考えてしまいます。

福祉で言う人々の幸せとか社会の幸福というものも、地球環境が安全で初めて成り立つものなのかなと思うので、この気候危機というものに対して、とても強い関心があります。

この気候危機の問題は、貧困とか格差とか雇用とか経済とか、農業とか地域の地方の衰退とか、そういういろんな課題とも繋がっているなと思っているので、逆にこの気候危機を解決するというのは、そういういろんな課題を解決する方法にもなると思いますし、勝手に、地域は、そういう課題を解決する鍵を握っていると思っているので、私は特に専門的な知識とか経験があるわけではないのですが、少しでも皆さんのお役に立てればなと思っています。よろしくお願いいたします。

#### 8 今後の日程

##### 【会長】

ありがとうございました。今後の日程につきまして、事務局から説明をお願いします。

	<p><b>【事務局】</b></p> <p>次回、第2回の策定協議会は、5月20日金曜日、午後3時から、防長苑で開催させていただきます。日程が近づいてまいりましたら、事務局からお知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、本日は、時間の制約もございましたので、会議の場で御発言しきれなかった御意見、御質問などがございましたら、お手元の資料5「意見書」を御記入いただき、事務局まで、御提出いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>いただいた御意見は、次回の策定協議会で回答させていただきたいと思っております。</p> <p><b>【会長】</b></p> <p>その他、御意見、御質問等がございましたら、よろしくお願いいたします。ないようでしたら、第1回の山口市総合計画策定協議会を終了させていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、事務局に進行をお返しいたします。</p> <p><b>9 閉会</b></p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>皆様、本日は、長時間にわたり、御協議をいただきまして、誠にありがとうございました。今後、来年1月頃まで、ほぼ毎月、協議会の開催を予定しておりまして、皆様には、大変御負担をお掛けしますが、よろしくお願いいたします。</p> <p>本市といたしましては、皆様から御意見、御提案などをいただきながら、本市の未来を描く後期基本計画を策定してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして、第1回山口市総合計画策定協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・資料1 第二次山口市総合計画後期基本計画の策定について</li> <li>・資料2 委員名簿</li> <li>・資料3 配席図</li> <li>・資料4 山口市総合計画策定協議会設置要綱</li> <li>・資料5 意見書</li> </ul>
<p>問い合わせ先</p>	<p>総合政策部 企画経営課</p> <p>TEL 083-934-2747</p>